

No.64

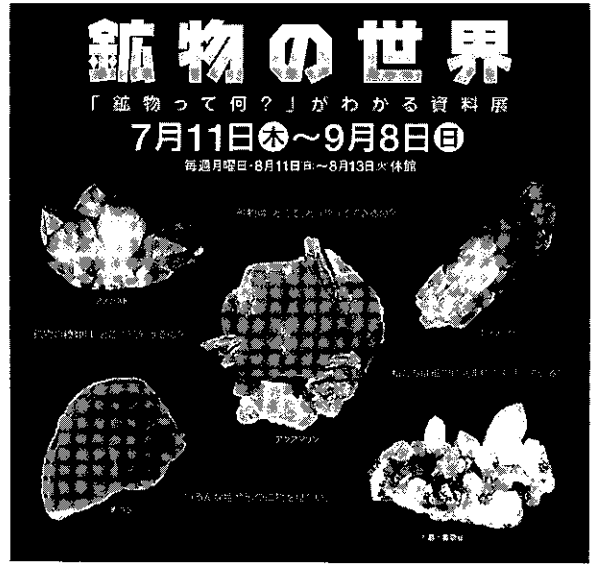
「移動地質標本館」-つくばから日本全国への出張展示-

地質標本館は国内有数の展示標本を誇りますが、それらは12万点にのぼる登録標本のほんの一部です。収蔵庫には、ふだんお目にかけることのできない「逸品」が眠っています。これらは常設展示の入れ替えや、標本館での企画展示の機会にご覧いただけるよう努めています。さらに最近は、「移動地質標本館」との愛称でテーマを持った展示を組み立てて、館外にセットでお貸しし、様々な規模の企画展としてご覧いただくことを試みております。

産総研発足とともに本格化した「移動地質標本館」の取り組みとして、この夏、常陽史料館（茨城県水戸市）で開催された企画展「鉱物の世界」（第1図）について、御紹介します。

企画展「鉱物の世界」は、サブタイトルの「『鉱物って何?』がわかる資料展」から伺えるように、一般の方々にはなじみの薄い「鉱物」の姿を、ごく初歩的なところから紹介することを目的としています。地質標本館は企画のはじめの段階から全面的に協力し、展示の構成や説明について助言するとともに、使用した標本のほとんどを出展しました。

展示は、テーマ別の6個のショーケースとパネルおよび2個の縦型ショーケースに加え、展示室入口に設置した4種類の展示（茨城県自然博物館貸し出し）を組み合わせる構成されました（第2図）。第1のショーケースのテーマは、「鉱物って何?」です。ここでは、地球をつくる物質である「岩石」と、岩石を構成する固体成分である「鉱物」を並べました。そして、鉱物が科学的に定義され原子配列の規則的な繰り返しを必ず持つ物であること、これに対して岩石は、多数の鉱物粒子の集合体という別の性質のものであることを示しました。また、地球のどの



■会場：常陽史料館 アートスポット

■入 館 料：無料

■開館時間：午前10:00～午後5:45

●主 催：利根川常陽歴史センター

●協 賛：茨城県教育委員会 水戸市教育委員会

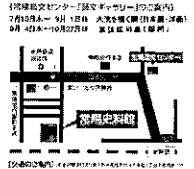
●協 力：独立行政法人産業技術総合研究所地質標本館

「の金の歴史-銀行の歴史」(9月5日開展)

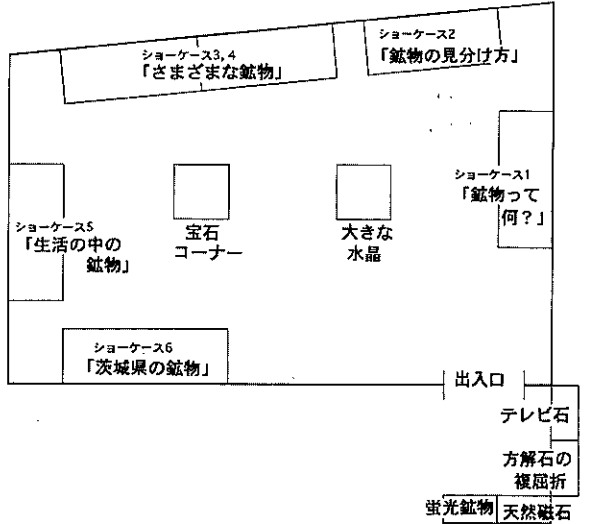
※土曜・日・祭日、祝日・休日に開館する企画展示がご提供されます。

●茨城県産産物産物センター(水戸市)と共同開催

※この企画展は、常陽史料館の協賛で開催されます。



第1図 企画展示「鉱物の世界」のパフレット(常陽史料館提供)。



第2図 「鉱物の世界」展示レイアウト。展示室内のショーケースに、地質標本館所蔵標本を展示。出入口の4展示(テレビ石、方解石の複屈折、天然磁石、蛍光鉱物)は、茨城県自然博物館貸し出し。



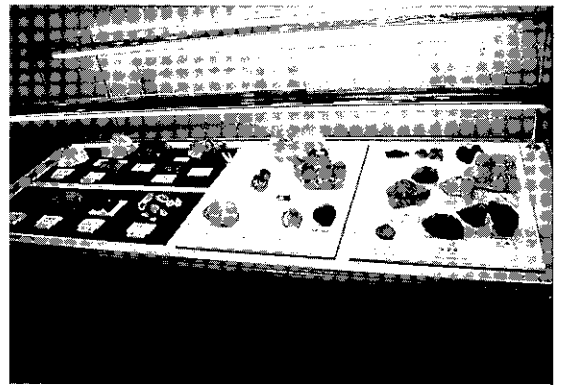
第3図 ショーケース1の展示, パネルと標本の組み合わせで, 各種岩石と鉱物の生成の場所を解説.

ような場所で標本として扱えるような鉱物ができるのか, パネルを使って解説しました(第3図).

第2のショーケースは, 「鉱物の見分け方」がテーマです(第4図). 鉱物を岩石ときわだたせる大きな特徴は, 岩石よりはるかに多様で鮮やかな色と光沢です. 鉱物の色は, 大きくは, 鉱物自身の化学組成から必然的に生み出される「白色」と, 微量の不純物や格子欠陥などのいたずらにより発する「他色」に分かれます. 第2のショーケースでは, 白色を示すいろいろな鉱物に対して, よく知られた鉱物である石英(水晶)の色付きの仲間達を並べて, 他色の発現の例としました. また鉱物の光沢も, 白色・他色とは別の意味でその化学的性質と関係しています. 重金属元素の硫化物や酸化物はガラガラした金属光沢を示すことが多い一方, 軽元素から成る珪酸塩鉱物や炭酸塩鉱物は, しばしばガラス状あるいは樹脂状の光沢を示します. 鉱物の白色・他色の展示の隣には, 金属光沢と樹脂状・ガラス状光沢の鉱物を並べて, その違いを実感していただきました.

鉱物結晶の幾何学的形態も, 自然界では際立った特徴といえるでしょう. 第2のショーケースに展示の鉱物には, 化学的特徴に加え柱状, 板状など鉱物としてよく見ることでできる結晶形態の標本を選び, 結晶のスッキリした美しさを鑑賞していただきました.

第3と第4のショーケースでは, 「さまざまな鉱物」というテーマで, 化学組成にもとづく分類にしたがったいろいろな鉱物を展示しました. また第5のショーケースでは, 「生活の中の鉱物」をテーマに, 日



第4図 ショーケース2の展示. 鉱物を特徴付ける, 色, 光沢, 形態についての展示(常陽史料館提供).



第5図 宝石鉱物とカットストーンで構成した, 縦型ショーケースの展示.

常生活に欠かせない品々がいろいろな鉱物を原料にした素材から作られていることを示しました. 展示では, たとえば銀製アクセサリーと輝銀鉱物というように, 鉱物と製品を並べています.

第6のショーケースは, 「茨城県の鉱物」のコーナーです. 茨城県には, 山ノ尾(真壁町)のペグマタイトや, 高取鉱山(七会村)のような有名な鉱物産地がありました. 昔からの産地のいくつかは, 産地として廃れたり, 採集が不可能となったりしていますが, 今でも細々ながら鉱物採集が可能な場所もいくつも残されています. また, 岩間町長沢のような新しい産地も出てきています. 「茨城県の鉱物」のショーケースでは, 茨城県に産するいろいろな鉱物を, 歴史的なもの・新しいものを取り混ぜて紹介しました.

ここまで6個のテーマ別ショーケースとは別に, 会場内には2つの縦型ショーケースを並べ, 入口側の



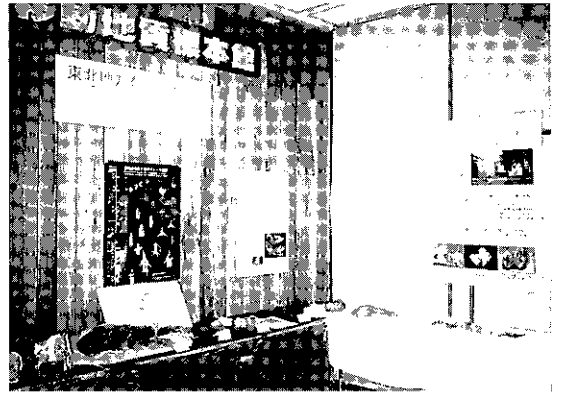
第6図 企画展期間中の会場の様子。親子連れでにぎわった(常陽史料館提供)。

1つに福島県石川町産の大型水晶(高さ約60cm)を据えました。また奥側の縦型ショーケースには、いろいろな宝石鉱物の原石標本とカットストーンを並べました(第5図)。透明なピンクと黄色のカラー・ゾーニングが美しい30cm大のスボジュメーン(リチア輝石)や、地質標本館収蔵の「大森標本」の多数のカットストーンが、多くのお客様の目をひいていました(第6図)。

企画展は2002年7月11日から9月8日にかけて開催されました。常陽史料館の企画展示としては異色のテーマとのことですが、夏休みの親子連れを中心に多くの方々に楽しんでいただくことができました(第6図)。

この企画展「鉱物の世界」に出展した鉱物標本は、全部で180点にのぼります。いつもは収蔵庫に眠っている標本にとって、またとない活躍の機会だったと言えます。

「移動地質標本館」は、この常陽史料館企画展だけではなく、産総研地域センターの一般公開の機会には、要請を受けて、その地域を代表する地質標本を組み合わせせて出展しています。今年度はすでに、7月の九州センター、8月の関西センターおよび東北センターなどの一般公開に出展しました(第7図)。地域センターの置かれた地域には、昔隆盛を誇った鉱産地が含まれることもありま



第7図 産総研東北センターで開催された移動地質標本館の展示。同センターの一般公開(2002年8月30日)にあわせて開催された。

す。地質標本館は2度ととることのできない休廃止鉱山産のみごとな鉱物・鉱石標本を、多数収蔵しています。これらの標本は地域センター一般公開で、特に多くの方々の関心の的になっております。地域センター一般公開への出展は、産総研発足に伴って始まりましたが、どこでも好評をいただいております。出展先がどんどん増えています。

博物館向けには、地質標本館での特別展示から形とコンセプトをほとんど変えずに貸し出すこともあります。地質調査所時代の2000年夏に実施し、大好評を博した特別展示「水晶・クリスタルの魅力」(坂野ほか、2001)の展示標本は、ほぼそのままの組み合わせで、昨年夏の富山市科学文化センター(富山県)企画展に出展されました。その一部はこの夏、豊橋市自然史博物館(愛知県)に貸し出されています。来年もどこかの博物館にお邪魔することになるかも知れません。

このように「移動標本館」は、日本全国の方々とつくばの地質標本館をつなぐ架け橋になろうとしています。(奥山康子、春名 誠、豊 遙秋)

引用文献

坂野靖行・春名 誠・豊 遙秋(2001):夏休み特別展示「水晶・クリスタルの魅力」。地質標本館だよりNo.57, 地質ニュース, no.559, 66-68.